



女性が自立し成功できる 農業のために

橋爪 恒雄 (はしづめ つねお)
(株)アグリファッショングループ代表取締役社長

北海道の十勝地域は、日本の食料供給基地と言われるほど豊かな農産物を産出している農業王国です。その中核都市である帯広市で、いろいろなツールを使い農業を明るく発信している「(株)アグリファッショングループ」代表取締役社長の橋爪恒雄さんにお話を伺いました。

《女性のための新しい就農モデル》

もともと、この地域は農地も良く大規模農家が多いところでした。そのため、新規就農をするにしてもなかなか農地がなく難しかったのです。ましてや、女性の就農なんてetc…。一般的に女性が農業に携わるとしたら、農業法人に就職する、もしくは、農家の一人娘か、農業を営む結婚相手を見つけて嫁ぐなど就農の選択肢は限られていました。

そのような状況を知り、橋爪さんは女性のための新しい就農モデルを実現するための、プラットフォームづくりに取り組みしました。まずは、農地を貸してもいいという知り合いの農家から、5ヘクタールの農地を確保し、それに伴う費用をクラウドファンディング*で募り、アグリファッショングループの事業の一つとして「十勝ガールズ農場」を立ち上げました。クラウドファンディングでは、道内のみならず道外の方々もいて、全国的にも注目されているあらわれでした。



十勝ガールズ農場の初期メンバー

*クラウドファンディング

「群衆 (Crowd)」と「資金調達 (Funding)」という言葉を組み合わせた造語で、インターネットを通じて不特定多数の人に資金提供を呼びかけ、趣旨に賛同した人から資金を集める方法。



後ろに並ぶのは、輸入販売しているトラクターなどの農機ミニチュア。その他にも店内には、オリジナルのTシャツやカラフルなつなぎ、キャップも販売中。

《印象に残るネーミングの仕掛け人》

橋爪さんは、当初メンバーである女性3人に「十勝ガールズ農場」の事業を任せることにしました。農場は規模が小さいため大規模農家のような経営は難しく、通常の野菜と差別化を図ることにしました。

サイズが通常の50分の1の「マイクロ野菜」、表面の色が異なる14種類のジャガイモの「カラフルポテト」、カラフルな粒が特徴的なトウモロコシの「七色コーン」、ミニトマトよりも小さい「マイクロトマト」、そのほか、小型のニンジンやパプリカなどカラフルで写真映えする見た目が印象的な野菜を栽培しました。

また、マイクロ野菜は、野菜本来の味が凝縮されてとても美味しく、調理するのにも簡単でした。ニンジンも甘くて野菜が苦手だった子どもでも、野菜を好きになって食べられるようになったそうです。

今までの農業では、通常の大きさである程度の量を出荷するのが一般的でしたが、こういった女性目線の発想を活かしブランド化していきました。橋爪さんは、東京などへ販路を拡大し、今では表参道や自由が丘、銀座、二子玉川などの有名飲食店と契約、星野リゾートホテルとの事業連携（農産品販売・観光事業）、マルシェやWEBでの野菜の直接販売を行っています。

このほかにも、修学旅行生の農業体験や国内外の学生インターンを受け入れて農業に理解を深めてもらっています。今年、3年越しで誘致した修学旅行が、新型コロナウイルスの影響でキャンセルになるなど経営者の苦労は絶えません。こうした環境の中でも、新しい就農のやり方、異業種の組み合わせで女性でも経営できる農場を明るく発信したいと頑張っています。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。